



# War Cry

## 9月号

福音版  
2022

September  
No.2839

二〇二二年 九月一日 発行

明治二十八年 創刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行 (除く七月)

# GOOD NEWS と きの こ え

## 感謝祭、その由来

山谷 真



だいぶ前、ある方から「救世軍感謝祭という名称はおかしいのでは？」というご指摘を頂きました。「救世軍に感謝しなさい、と言われているような感じがして、良い印象がしない」というご意見でした。言われてみると確かにそう受け取られてしまう可能性があることに気づかされました。そもそも感謝祭というのは、どういうことなのでしょう？

日本語で「感謝祭」と訳されている元の英語には二種類あります。

ひとつは「ハーベスト・フェスティバル」です。これは古くからイギリスで九月に祝われている収穫感謝祭です。秋の実りを感謝するために、教会の祭壇を農作物で飾り付け、賛美歌を歌い、祈りを献げます。次の賛美歌がよく歌われます。田はたをつくり

たねをまけど  
あめゆきふらせ  
かぜをおくり

日のひかりもて  
あたためつつ  
そだてたもうは  
あめなる神

愛の み神 あたえたもう  
あふれるめぐみ

ともにたたえん  
〔救世軍歌集〕390番1節

感謝祭のもうひとつの元は「サンクスギビング」です。こちらはアメリカで十一月の第四木曜に祝われます。十七世紀に信仰の自由を求めてアメリカに渡ったピルグリム・ファーザーズは食料不足のために冬を越すことができず、移民の半数が餓死しました。それを見かねた先住民がトウモロコシの育て方を移民に教え、次の秋には豊かな収穫を得ることができました。そこで、収穫を感謝する宴を先住民と移民が一緒に開いたのがサンクスギビングの始まりです。こちらではこの賛美歌がよく歌われます。

ものみなごぞりて  
みかみをたたえよ  
ハレルヤ ハレルヤ  
光のもとなる

日を造りましし  
みかみをたたえよ  
ハレルヤ ハレルヤ  
ハレルヤ

〔救世軍歌集〕7番1節

今、世界には痛ましい出来事が起きています。このままなら世界はどうなってしまうのだろう、と不安な思いに駆られることもあり。しかし、それにもかかわらず、変わることもなく太陽は昇り、雲は空に浮かび、恵みの雨が降り、大地は柔らかいベッドのような

土で覆われ、たくさんの作物が育まれて、世界の家庭の食卓に滋養と美味を備えます。人間の愚かさにもかかわらず、それは毎年繰り返し与えられるのです。わたしたちの先祖は、そこに人間の理解を超えた創造主の「善意」があることを感じ取ったに違いありません。ですから、収穫を感謝する祝いは洋の東西を問わず、守られてきたのだと思います。

その創造主は、収穫を与えてくださるだけでなく、神の独り子であるイエス・キリストを十字架につけ、復活させることによって、わたしたちに罪の赦しと永遠の命を与えてくださる恵み深い方です。それは先ほどの賛美歌にあるとおり、まさに「あふれる恵み」です。あふれる恵みを与えてくださる創造主に感謝する思いをもって、わたしたち救世軍一同は今年も感謝祭募金をさせていただきます。ご協力いただければ幸いです。それにより救世軍は励まされて、さらに活動に邁進することが可能となります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

「感謝の献げ物をささげて主に歌え。」〔詩編147節〕  
〔救世軍十官（伝道者）〕

# こども食堂の取り組み



救世軍士官（伝道者）  
石川 節子 さん  
(救世軍東京東海道連隊本部)

東京・錦糸町駅にほど近い救世軍江東小隊では、毎月第三金曜日の夕方、「こども食堂マナ」が開かれ、毎回多彩なメニューのお弁当が安価で提供されています。多くの方が利用され、スタッフとの温かなやり取りも見られます。ここでの活動を始めた石川節子さんの証言をお届けします。

**「考えてないでやってみなさい。失敗してもいいから。」**

二〇二〇年三月に新型コロナウイルス感染症拡大のため、全国の公立小・中学校が休校となりました。急な決定に各家庭はもちろん、多くの関係者が影響を受けました。「六人に一人の子どもが貧困家庭」と言われている中、学校給食で養われている子どもたちが多くいることを考え、休校で給食を食べられない状況、また家庭に長時間いることによる子どもたちへの様々な影響に懸念を抱きました。さらに、仕事を休めず朝の出勤前に子どもの昼食準備をする必要がある親御さんの負担の声を聞き、一食でも親の負担を減らし、子どもだけの在宅家庭の見守りも兼ねて、昼食を提供できないかと思えました。

しかし、思いはあっても実際はどうやって子どもたちにお弁当を届けることができるだろうか？ 現状維

持に追われる日々、資金も限られ不安が多々ある中で、「考えてないでやってみなさい。失敗してもいいから」と先輩士官（伝道者）の一言に背中を押され実行に踏み切りました。

江東小隊（教会にあたる）の協力を得て、英語クラスの保護者にSNSで伝え、小隊前に看板を設置しました。そして三月十日から週二回、「緊急こども給食」をおこないました。一回五十食のお弁当を、江東小隊や近隣の小隊士官の応援を得て調理し、百円で提供。初日は少数の利用者でしたが、回を重ねるごとに利用者が増え、一人で百円玉を握りしめて来る子ども、仕事の昼休みに留守番している子どもに届ける父親、片言の日本語で買いに来られる人、様々な出会いが与えられました。

## 循環支援

支えるときに、支えられる

同時期、ニュースで農林水産省が学校給食の停止を受けて「酪農家を応援してください」と呼び掛けているのを知り、農林水産省に問い合わせました。担当者が真摯に対応してくださり、次々と関連団体・業者の手配が進み、十日後には十七箱四百八本の牛乳を無償でご提供くださいました。併せて酪農家支援の一環としての「こども給食」活動への取材要請があり、テレビ番組『賢者の選択』でも紹介していただきました。



2020年「緊急こども給食」の時期

次第に利用者は増加し、開始前から行列ができ、五十食を六十、七十食と増やし、開始十分で完売するようになりました。ある母親から「こども給食」のおかげで、働くママとしては本当に助かっています。子どもにとっては、温かいものを食べられるだけでなく、外に出て教会の方と言葉を交わせることは今の時期にとっても貴重なことだと感じ

ました。そして、子どもだけじゃなく私自身も救われています。本当にありがたいとメールをいただきました。学校給食再開まで「こども給食」の需要が高まり、期間を延長しおこないました。心配していた人手も、コロナで仕事がない状況にある教会員が、家族総出でボランティアをしてくださりました。「門をたく」時に重い扉は開かれ、人知を超えた神の愛が働かれることを実感しました（マタイによる福音書7章7節）。私自身、身が恐れ、感情に囚われ、門をたく前にあきらめていたのです。わずかなもの



2020年9月「こども食堂マナ」のスタート

でも主イエスに献<sup>ささ</sup>げる時に、主イエスはそれを祝福し利用してくださることを体験しました。

最終日には「とても助かるから続けてほしい」という声を複数いただきました。

### 「誰かがやるのを待っているのではなく、あなたがそれをおこないなさい。」

その後もパンデミックで日常が大きく変化していきましました。私の任地である連隊本部（地区本部）には街頭生活者の人から「どこの炊き出しも中止になってしまい、食べることに困っている」という問い合わせがありました。実際に食糧を求めて訪ねて来られる若い

しかし、コロナ感染は拡大するばかりで、調理し提供するには安全上のリスクと、マンパワーの限界がありました。「こども給食」は五月で一旦終了しました。

人や女性たちがおられ、これまでとは明らかに異なる状況でした。またコロナ禍を受けて他団体の「子ども食堂」が次々と休止されていくニーズを見て、「このようなニーズがあっても救世軍は支援活動をしなにか？ 今やらずにいつやるのか？ 社会鍋募金で多くの方が献金を寄せてくださっているのに何もしないのか？」と自問自答が続きました。「主よ、人も資金も足



↑ 2022年、多くの協力者に支えられ多彩なメニューが提供されています



↑ 多くの献品が寄せられる「フードバンク」ボックス

### 地域に開かれた教会

### 「コミュニティ・チャーチ」をめざして「こども食堂マナ」を再スタート

学校が再開され昼食提供のニーズがなくなり「こども給食」は役割を終えました。しかしコロナ禍の影響は各家庭そして子どもたち

に及んでいました。多くの我慢を強いられている子どもたち、そして子育てに奮闘されるご家庭を少しでも応援したい思いから、子ど

もだけでも安心して利用ができ、かつ多世代に向けた地域に開かれた教会をめざして、二〇二〇年九月から月一回夕方に「こども食堂マナ」として再スタートしました。「マナ」とは聖書にある「神様が与えてくださる日ごとの糧」という意味です。

から鱗<sup>うろこ</sup>が落ちて光が見えた思いでした。聖書の中にイエス様のなさった「五千人の給食」の物語がありますが、群衆を解散させようとした弟子たちに、イエス様は「あなたがたが彼らに食べる物を与えなさい」と言われました（マタイによる福音書14章16節）。あらためてこの箇所を読んだ時に、「誰かがやるのを待っているのではなく、あなたがそれをおこないなさい」と主イエスから言われているようで、祈る中、心が決まりました。

現在は、救世軍のサポーターや地域の店舗からお弁当を購入し、安価で提供しています。同時に「フードバンク」のためのボックスを小隊前に設置し、食品提供をお願いしています。また、様々なサポートが与えられています。墨田区で長年救世軍をご支援くださっている玉の肌石鮎株式会社様・ミヨシ石鮎株式会社様をはじめ、墨田区社会福祉協議会、ベタニヤホームフードパントリー様、Lionsキッズ食堂様など、多くの企業・団体からの協賛によって支えられています。コロナでキャンセルされた結婚式の引き出物用菓子が寄贈されたこともありました。今年からは神楽坂の「ドーナツもり」様が毎回、子どもたちにオーガニックドーナツを無償提供してくださっています。循環支援によ

って、人と人がつながり、支援の輪が広がっていくことを実感しています。

毎回家族六人分を買いに来る男児は、初回「こども給食」からのお得意様です。彼はこの春中学生となり、照れながらも制服姿を見せに来てくれました。二年間で背丈も伸び、その成長ぶりにスタッフ一同喜びました。子どもたち、そして一人ひとりが主イエスに在って守られるよう祈ります。「こども食堂」の働きを通して私自身が教えられたことは、救世軍のミッションは創立時代から普遍的であり不変である「社会の痛みに寄り添う」という使命の再認識です。それを見失う時に、救世軍のアイデンティティは崩壊します。世界中が危機的な状況にある今こそ、救世軍が必要とされ、出て行く時であると信じます。

「錆びるより すり減るほうがよい」と命を削り生きた山室軍平。「I'll fight (私は闘う)」と東ロンドンの貧民街に出て行った創立者ウイリアム・ブースの生きざまが私を突き動かしています。

創立者 ウィリアム・ブース 大将 ブライアン・ペドル (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 スティーブン・モーリス (救世軍本営 東京都千代田区)



世界をみつめて

〈日本〉女性の働き 100周年

6月、日本の救世軍における「女性の働き100周年記念行事」として、記念礼拝やオンラインによる交流会、講演会がおこなわれました。

救世軍は日本での働きの初期、<sup>はいしろう</sup> 廃娯運動を推し進め、1900(明治33)年には、遊郭で売春をさせられていた女性たちを保護する「婦人救済所」を東京・築地に開所し、日本人初の救世軍士官(伝道者)山室軍平の妻 機恵子が所長となりました。1922(大正11)年には東京の亀戸分隊(伝道所)において正式に家庭団(女性のための礼拝と交友のグループ)が発団されました。それから100年を経た現代においても女性の立場や生き方には多くの課題があります。救世軍ではこれからも様々なアイデアで女性の働きを進めていきます。



〈ヨーロッパ〉ウクライナの危機に際しての支援活動 続報

戦争で大きな痛みを味わっている地でも、人々の生活は続いています。ウクライナ西部の町ヴィーンヌィツャの救世軍では、女性たちが手仕事の集まりをおこない、作品を作りながら会話を楽しんでいます。今の深刻な状況に耐える力、希望と愛が与えられるよう神に祈り求め、活動を続けています。



ルシヨップ「ブースハウス」では、寄贈された中古自転車を修理、整備し、ウクライナ難民の人々に提供しています。「ブースハウス」では、街頭生活を経験した人々が社会復帰をめざし、自転車修理の技能を身につけるため働いています。スウィンドンの町では、ウクライナ難民の人々が地域で安心して生活できるプログラムが自治体主導でおこなわれており、この自転車があれば、必要なサービスを受けるための移動が楽になります。

〈南アフリカ〉洪水被災地での支援活動

南アフリカ共和国のクワズール・ナタール州では、2022年4月中旬に、記録的な大雨による大規模な洪水や土砂崩れが発生しました。犠牲者は400人以上、行方不明者は60人以上に上ります。現地の救世軍は災害の発生直後から被災地に入り、継続的に訪れて食品セットや衣類、毛布、日用品を届け、共に祈りを献げています。



救世軍とは? What is The Salvation Army? 心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man

救世軍は、英国ロンドンに国際本部を置く、世界132の国と地域で活動するプロテスタントのキリスト教会です。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウィリアム・ブースと妻カサリンによって始められ、東ロンドンのスラム街で、家のない人々、アルコールの悪影響下にある人々、<sup>さくしめ</sup> 搾取される女性や子どもたちに助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。



日本では1895(明治28)年に英国から士官(伝道者)たちが来日して、救世軍の働きが始まりました。日本人最初の救世軍士官となった山室軍平は、誰にでもわかりやすい言葉で説教や聖書解説をし、多くの人々に感化



を残しました。127周年を迎える日本の救世軍では現在、41の小隊(教会にあたる)、19の社会福祉施設、2つの病院(ホスピス併設)を通して働きを進めています。

救世軍の活動、使命は、国連が掲げる2030年に向けての「持続可能な開発目標」(SDGs)の目標達成にも貢献するものです。今年も「感謝祭」募金を通してこれらの活動へのご支援を賜りますなら幸いです。

秋の募金のお願い 感謝祭募金 Harvest Festival 2022 募集期間 2022年9月15日(土)～30日(土) 救世軍. 持続可能な社会をめざして 1. 貧困削減 2. 質の高い教育 3. 健康と福祉 4. 公平なエネルギー 5. 気候変動対策 6. 水と衛生 7. 持続可能な消費と生産 8. 働きがいと経済成長 9. 産業、イノベーションとインフラ 10. 人や国の平等 11. 持続可能な都市とコミュニティ 12. 消費の責任

救世軍公報 ときのこえ 発行日 福音版/毎月1日、広報版/奇数月15日(除く7月) 定価 福音版/1部40円、広報版/1部100円(税込) クリスマス特集号(12月1日号)/1部100円 振替 00180-5-4400 発行兼 救世軍 印刷人 代表者 スティーブン・モーリス 編集人 山谷 真 発行所 救世軍本営 https://www.salvationarmy.or.jp 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 電話 03-3237-0881(代表) Mail jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org 印刷所 ピーアンドエス



聖書は新共同訳を使用しています ©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会 救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営(左記)、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。 ・私の近くの救世軍を紹介してください。 ・キリスト教についてもっと知りたいです。 ・『ときのこえ』の購読を申し込みます。 ・相談を希望します。